

令和6年度 府立北嵯峨高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「独創質実（何事も自ら考え、主体的に判断し、真摯な態度と素直な心で行動する。）」の校是の下、高校生活の限られた時間の中、集中力と工夫により学習と部活動の両立を実践し、「人を育て、心を育む」教育を目指す。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 規律ある生活により、学力・体力・情操の向上を図る。</li> <li>2 科学的認識を養い、創造性と実践力を育てる。</li> <li>3 保護者・地域との連携を深め、生徒の進路についての願いを実現することに努める。</li> <li>4 地域の歴史と文化遺産に対する理解を深め、その文化を守り育てる力を養う。</li> </ol>	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)「主体的・対話的で深い学び」を意識した取組ができた。</li> <li>(2)学年に応じた段階的な進路学習により成果をあげることができた。</li> <li>(3)ICTの活用が積極的に進められた。HPやSNSを活用した学校情報の発信もできていた。</li> <li>(4)新型コロナウイルス感染症による教育活動の制限がなくなり、行事など生徒の活動が活発化した。とくに部活動や生徒会は積極的に活動できた。</li> <li>(5)図書委員会活動や教科指導により、生徒の読書活動が活発化した。</li> <li>(6)人権学習では充実した取組が実施できた。</li> <li>(7)様々な課題を抱える生徒に対して教育相談会議で情報共有を行い、SCやSSWと連携し、丁寧に対応できた。</li> <li>(8)小中高連携を積極的に進め、地域と密着した取組ができた。</li> </ol> <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)学習指導の一層の充実をはかり、学校全体で学力向上に取り組み、自主的・自発的な学習習慣を定着させる必要がある。</li> <li>(2)ICTの効果的な利活用を進める。</li> <li>(3)生徒の自主的な活動で地域社会との連携を図り、地域のリーダーを育てることが望まれる。</li> <li>(4)交通マナーの指導を引き続き徹底して行う必要がある。</li> <li>(5)様々な機会をとらえ、コミュニケーション能力の育成を図ることが望まれる。</li> <li>(6)創立50周年を節目として活用し、地域に根ざした学校のイメージを定着させることが望まれる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 新学習指導要領に基づく教育の研究・実践 新学習指導要領の完成年度であり、指導と評価について改善を進めるとともに、タブレット利用やスタディサブリの有効活用などを促進して学習指導の一層の充実を図り、希望進路の実現につなげる。</li> <li>(2) 部活動、特別活動のさらなる充実と発展 運動部・文化部の活性化を推進して「強い北嵯峨」を実現し、生徒の自己肯定感や達成感の高揚をはかるとともに、日々の学校生活や特別活動等で、生徒が自主的に考え、行動できるような場面を創出し、豊かな人間性の育成に資する。</li> <li>(3) 嵯峨・嵐山の教育資源の積極的活用 歴史的風土に恵まれ、観光資源豊かな北嵯峨という地域のメリットを最大限に生かし、生徒が学校外に出て他校種や地域社会などと積極的に関わる機会を設けながら、地域への関心を深め課題意識をもって学ぶ活動を実践する。</li> <li>(4) 人間関係構築力の育成と個に応じた対応 様々な機会をとらえ多様な集団の中で人間関係を築くコミュニケーション能力の育成を図る。困難や課題を抱える生徒一人一人の状況に応じ、細やかに連携しながらチーム学校として対応する体制づくりをさらに進める。</li> <li>(5) 創立50周年事業の成功 創立50周年を契機として活用し、地域とともにあり続けるこれからの北嵯峨高校の姿を明確にする。</li> </ol>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習指導	◇「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業と評価の一体化を図り、生徒に基礎的な学力を習得させる。	◆「主体的・対話的で深い学び」に重点を置いた授業づくり及び評価方法を模索し、その成果や課題について研究し、それをさらなる授業改善及び適正な評価につなげることで生徒の基礎学力定着に努める。		《教務》
	◇ICT 機器を最大限に活用し、学びに対する興味・関心を高める教育活動を発展させ、生徒の学習意欲の向上を目指す。	◆タブレット端末やスタディサブリ等のICTを取り入れた授業での取り組みを校内で共有し、その改善点を議論し、よりわかりやすい授業につなげることで生徒に自ら学ぶ力をつけさせる		
生徒指導 特別活動	◇生徒自身に「規律ある生活とは何か」を考え、実行させることにより、基本的な生活習慣を確立させる。	◆基本的生活習慣の確立を図るために身だしなみや時間を守るなど学校生活の規律を全教職員で指導を行う。		《生徒指導》
	◇交通規則の遵守と交通安全に対する意識を高める。	◆関係各団体と協力し、交通規則の順守と、自転車の交通マナー及び交通安全に対する生徒の意識を向上させる。		
	◇生徒会や部活動を活性化し、地域の教育資源を活用しながら生徒の主体性・社会性を育成する。	◆生徒会や部活動を奨励し自らを研鑽する姿勢と豊かな人間関係を獲得するとともに、地域の活動に主体的に参加することで社会性やボランティア精神による豊かな人間性の育成を目指す。		

進路指導	◇生徒一人ひとりの希望進路実現に向けて、学校全体で進路指導を行う体制を構築し、キャリア意識の形成を図る。	◆個々の生徒の学力状況・学習状況・進路希望をデータに基づいて客観的に把握し、学力向上と進路希望実現に向けて多方向から指導を行うための情報提供や指導体制の構築を図る。			《進路指導》
		◆キャリア教育や進路学習を充実し、学内外の連携のもとで生徒個々の進路意識の向上を図るとともに、適性と希望に応じた進路指導を推進し、進学・就職ともに第一志望達成率の向上に努める。			
人権教育	◇人権問題を正しく理解させ、いじめの根絶を図る。	◆あらゆる教育活動に人権の視点を入れ、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決や、いじめ等の未然防止のための意識を高め態度を育成する。			《生徒指導》
健康・安全教育	◇健康の維持増進や安全について自己管理ができるように促す。	◆健康診断の結果を基本的な生活習慣の確立への指導に繋げ、主体的に自己の健康を管理・実践できる力を養う。			《保健部》
	◇教育環境づくりを推進するとともに、保健衛生の意識を高める。	◆日々の清掃活動を徹底し、美化意識、公共心を養い、良好な学習環境を自分たちで作出す意識を育む。保健衛生を意識した主体的な行動がとれる態度の育成を目指す。			
	◇教育相談を充実させ、特別な支援を必要とする生徒への組織的対応の推進を図る。	◆日常の生徒観察を重視し教育相談会議と早期に連携を図り、安心・安全な学校生活を送れるように支援する。様々な課題を抱える生徒については、状況を確実に把握し、関係機関・SC・SSWと連携しながら、発達段階に応じて教育的・心理的な支援を行い、気軽に相談できる体制づくりに努める。			
図書館指導	◇図書館を活用した指導を充実させ、生徒にとって居心地がよく、新しい時代に適応した図書館を目指す。	◆教科との連携を通じて生徒の読解力向上を目指す。読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにする。ICT活用も含めた図書館活用のあり方を研究する。			《図書》
安全管理情報・文書	◇学校の危機管理体制を教職員と生徒が一体となって強化する。	◆教職員と生徒自身が危機管理対応について理解を深め、自分や他人のために安心安全に適切な対応ができるよう危機管理能力を高める。			《副校長》
	◇ICT 活用の拡大に適切に対応し、学校の情報管理体制の一層の徹底を図る。	◆生徒の多様な個人情報適切に管理し、学校の情報管理体制の充実と教職員のセキュリティ意識の向上を図る。			
家庭・地域社会との連携	◇広報活動の一層の充実を目指し、迅速できめ細やかな情報提供を図る	◆各中学校との連携を深め信頼関係を築く。HP や SNS を活用した広報活動を一層充実させ、本校の魅力を伝え「行きたい」学校づくりを進める。			《総務企画》
	◇地域に根ざし、保護者や地域に信頼される学校づくりに努める。	◆学校運営協議会・PTA との連携を深め、地域の資源や文化的歴史的价值を活用した教育を推進する。創立 50 周年を節目として活用し、さらに地域に根ざした信頼される学校づくりに努める。			